

広島のスoulフード「お好み焼き」を通じた戦後復興の物語
RCC被爆80年未来へつなぐ特別企画「お好みたべたい」
第63回ギャラクシー賞 ラジオ部門 奨励賞を受賞

RCCラジオでは、2025年7月から9月にかけて、「花金ラジオ すっぴんブギ」の中で、被爆80年の特別企画として、連続ラジオ小説「お好みたべたい」を放送しました。

連続ラジオ小説「お好みたべたい」は、戦後、お好み焼を広島のスoulフードに育て上げたといわれる「みっちゃん」の創業者、井畝満夫さんの生涯を描いたものです。作家・清水浩司さんによる関係者への取材とRCCに残る井畝満夫さんに関する資料などを基に構成・創作したオリジナルストーリーを、シンガーソングライター二階堂和美さんが変幻自在な声での朗読しました。

25年の大晦日には、この全13話を、1時間に凝縮した特別番組「RCC被爆80年未来へつなぐ特別企画『お好みたべたい』」として放送。ナビゲーターはRCCの青山高治アナウンサーが担当しました。その作品が、この度、「ギャラクシー賞 ラジオ部門 奨励賞」を受賞しました。



●レギュラー放送の最終回はスタジオ出演

●特別番組のナビゲーターは青山高治アナウンサーが担当

●収録には「二代目井畝満夫」である上川学さん(右)も毎回参加した

【井畝満夫さんについて】

幼少期に満州に移り住み、戦後、両親と共に広島に引き揚げる。父・井畝井三男(いせ・いさお)さんの屋台「美笠屋」を引き継ぎ、1953年に店名を「みっちゃん」に改名。もともと野菜だけだったお好み焼に麵を入れるなど、今のお好み焼の原型を作り上げた。1968年「みっちゃん総本店」の1号店を八丁堀に開店。広島街にお好み焼を定着させた第一人者。2024年、91歳で亡くなる。

【ギャラクシー賞とは(NPO法人放送批評懇談会のHPより)】

放送批評懇談会が日本の放送文化の質的な向上を願い、優秀番組・個人・団体を顕彰するために、1963年に創設。審査は放送批評懇談会会員から選ばれた選奨事業委員会が担当。賞の決定を第三者に委託する顕彰制度が多いなか、ギャラクシー賞は、放送批評懇談会の会員が一貫して審査にあたり、賞の独立性を維持しつづけている。

ラジオ部門では、上期・下期選考会で、入賞候補作品をそれぞれ8本を選出。5月の最終選考会で合わせた入賞候補作品16本から年間入賞8本を選ぶ。ここで落選した候補作品が奨励賞となる。

特設サイトではアーカイブをお聞きいただけます↓



「RCC被爆80年未来へつなぐ特別企画『お好みたべたい』」はヒロマツホールディングス、お好み焼みっちゃん総本店、オタフクソース、磯野製麺、ケーツエススチールの提供でお送りしました。